



大隈

9.

9

279



114
A 2632
2



修正ノ條項ヲ加除ニ別ニ一案トシ茲ニ之ヲ
報告ス

明治卅二年十月廿九日

副議長 寺島宗則

樞密顧問 佐野常民

樞密顧問 吉田清成

議長 伊藤博文殿

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

附録

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始

リ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入及歳出ノ出納ニ関ス

ル事務ハ翌年度九月三十日ヲテニ悉皆完

結スヘシ

第二條

租税及其他一切ノ財源ヨリ收納スル

モノヲ歳入トシ收税費其他一切ノ経費トシ

テ仕拂フモノヲ歳出トシ歳入歳出ハ總テ一

般ノ歳計ニ編入スヘシ

各年度ニ於テ決定シタル経費ノ定額ヲ以テ

他ノ年度ニ属スヘキ経費ノ仕拂ニ充テ又各

年度ニ属スヘキ收入ヲ以テ他ノ年度ニ属ス

ヘキ経費ノ仕拂ニ充ルコトヲ得ス

第三條 名義、如何、同、法律、以、定、

ラ、レ、サ、ル、特、別、資、金、ヲ、所、管、ス、ル、ヲ、得、ス、

第四條

名義

如何

法律

効

ヲ以テ定メ

ラレサル

租稅

賦役

課

スル

ヲ得

但

手

敷料

類

命令

ヲ以

テ之

ヲ課

スル

ヲ得

第二章 豫算

第五條

政府ハ歳入歳出ノ總豫算書ヲ前年度

十月一日ニテ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條

歳入歳出ノ總豫算書ニハ左ノ文書ヲ

添附ス

第一

各(有)種ノ豫定經費要求書

第二

其年三月三十一日ニ終ルタル會計年

度ノ總計算書

第七條

總豫算書ハ之ヲ款項ニ分ツ

帝國議會ニ於テハ政府ノ定ムル所ノ款項
依リ更ニ之ヲ分合スルコトヲ得ス

第八條

豫算定額ノ避クハカシヤル不足ヲ補充スル為メニ豫備金ヲ置キ之ヲ左ノ一項ニ分ツ

第一

憲法上ノ權利ニ基キ又ハ法律ノ結果ニ由リ又ハ政府ノ義務ニ屬スル經費

第二

豫期スルヲ得サル必要ノ經費ヲ支辨スルハキ第二豫備金

第九條

第一豫備金ノ支出ハ大藏大臣之ヲ定メ第二豫備金ノ支出ハ勅令之ヲ定

第八條 豫備金ノ支出ニ関シ法律ノ結果ニ由
リ又ハ政府ノ義務ニ屬スル經費ノ不足ヲ補
充スヘキモノハ大藏大臣之ヲ處分シ豫期ス
ルヲ得サル必要ノ經費ヲ支辨スヘキ者ハ勅
令ニ依ル

第九條 豫備金ヲ以テ支辨シタル貴途ハ年度
經過後ノ帝國議會開會ニ於テ其承諾ヲ求ム
ヘシ

第十條 天災其他臨時事變ノ為メ歲入徵收額

ノ豫算ニ連セズ若クハ豫算外臨時支出ノ多

カレシメ為メ豫備金ニ不足ヲ生ジタリ時

勅令ヲ以テ大藏省證券ヲ發行シ其不足ヲ補

算書ヲ以テ之ヲ定ム

方法ヲ次圖ノ帝國議會ニ提出スル

最高額ハ毎年豫

第十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セム

豫算成立ニ至ラズシテ前年度ノ豫算ニ依

リ施行スルニ當リ豫算總額内ニ於テ歳出豫

算各款項ノ更正ヲ必要トスルニハ

勅令ヲ以テ之ヲ定ムル

第三章 收入

第十二條 各年度ノ歳入ハ現ニ有効ナル法律

命令ニ從ヒ之ヲ徴収スヘシ

第十二條

歳入金ヲ金庫ニ納入スルトキハ金

庫ハ其目的ヲ記入シタル別符付ノ領收證ヲ

發スヘシ

右ノ領收證ハ納人ノ政府ニ對スル義務ヲ解

除スル證書トナルモ但右領收證ハ係

リ官吏ニ於テ別符ヲ切離シ檢印ヲ付スニ非

サレハ其効ヲ有セズ

第十三條

他法律ヲ以テ定メタルモノ、外

歳入未納金其他政府ニ對スル負債ノ全部又

一部分ノ彙捐若クハ延納許可ヲ要スル件

ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定メ、年度經過後、帝國議

會開會ニ於テ之ヲ報告スル

第四章 支出

第十四條

各年度各省

經營之元山所ノ定額

其年度

政府ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ但天災

其他臨時事變ノ為メ歳入徵收高ノ豫算ニ達

セズ若クハ豫算外臨時支出ノ多カリシ為メ

ニ豫備金ニ不足ヲ生シタルトキハ一時大藏

省證券ヲ發行シテ其不足ヲ補フコトヲ得

第十五條

各省大臣ハ各省ノ為メニ設ケテ

各項ノ定額ニ超過シテ經費ヲ使用スル

ヲ得ス

各省大臣ハ豫算書ヲ以テ定メタル目的ノ外

ニ經費ニ使用シ又ハ豫算書ニ特ニ許可スル

モノヲ除クノ外各項ノ定額ヲ彼此流用スル

ヲ得ス

各省大臣ハ其所管ニ屬スル收入ヲ以テ經費

ニ差支キ使用スルヲ得ス

第十^五條

各省

大臣ハ土地家屋ノ借入及特ニ

法律勅令ヲ以テ許可セラレタル場合ヲ除ク

ノ外ハ一年度ノ外ニ涉リ経費ノ支出トナル

ヘキ工事及物品ノ買^入借^入契約ヲナスヲ得

第十七條

省

各省大臣ハ其所管經費ヲ使用スル

為メ國庫ニ向ヒテ仕拂ノ命令ヲ發スヘシ但

各大臣ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ他ノ官

吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發ヒシムルヲ得

第十小^七條 國庫ハ法律規則ニ及ル仕掛ヲ命

令ニ對シテ仕掛ヲナスヲ得ス

第十九條

各省

大臣、直轄政府ノ正當ナル

債主若クハ代理人ノ為ニスルニ非サレバ

仕掛、命令ヲ發スルヲ得ス

左ノ諸項ニ係ル經費ハ主任ノ官吏ニ現金前

渡ヲナスヘキ命令ヲ發スルヲ得

第一 軍隊及ヒ艦隊ニ屬スル經費

第二 在外各廳ノ經費

第三 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕掛ヲナ

スル經費

第四 運輸通信ノ便少キ内國ノ地方ニ於

于仕拂ヲ為ス經費

第五 各官衙 廳中常用雜費ニシテ一ケ

年ノ費額五百圓ニ滿サルモノ

第六 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第七 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ

經費但一主任官ニ付キ三千圓マテ

ニ限ル

第十九條 前條第一第二第三第四ノ經費中必

要止ムヲ得サルモノニ限リ年度開始前六ケ

月以内ニ於テ命令ヲ發スルコトヲ得但其年

度豫算決定前ニ在リテ 恒例ニ係ル經費及

法律ニ據リ仕拂フヘキ經費ノ外命令スルヲ

得ス

第五章 決算

第二^二十^十條

歳入歳出、総決算書、會計検査

院、検査、経、政府ヨリ之ヲ帝國議會、通

常會ニ提出スルニ

第二十一條 歳入歳出ノ總決算書ニハ左ノ文

書ヲ添附スヘシ

第一 各省^{大臣}決算報告書

第二 國債計等書

第三 官有財産計等書

第四 特別會計計等書

第六章 歳入残餘定額繰越年度後

收支定額及入及期滿免除

第二十八條 政府ノ負債ニシテ其所屬年度經

過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ク

ハ仕拂ノ請求ヲナサ、ルモノハ期滿免除ト

シテ政府ハ其負債義務ヲ免ルモノトス但特

別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタル

モノハ其定ムル所ニ依ル

第二十七^三條

政府ノ所爲又ハ訴訟事件ニ妨ケ

ラレ支出若クハ仕拂ノ請求ヲナス能ハサル

トキハ前條ヲ適用セス但其事故終リタルトキ

ハ其時日ヨリ起算シテ仍前條ニ依ル

第二十四條

政府ニ納ムヘキ收入金ニシテ其所
屬年度經過後滿五箇年内ニ納入ノ告知督促
ヲ受サルモノハ納入ノ義務ヲ免ルヘシ但特
別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタル
モノハ其定ムル所ニ依ル

第七章 歳入残餘之額繰越年度

後收支及之額戻入

第二十五^五條 各年度ニ於テ歳入ニ残餘アルト
キハ其翌年度ノ歳入ニ編入スルヘシ

第二十四條

六

一年度内ニ

竣功

ハキ工事又ハ

兵器

彈藥

製作ニシテ

避クヘカラサル

事故ノ為

ニ遅延シテ年度内ニ支出ヲ終ラサリシ經

費額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルトヲ得

第二十五條 七 數年ヲ期シテ竣功スルキ工事又

ハ兵器彈藥ノ製作ニシテ其定額ヲ毎年度ノ豫算

ニ於テ許可スルモノハ毎年度ノ使用殘額ヲ

竣功豫算ノ年度マテ順次繰越シ使用スルヲ

ヲ得

第二十六^八條

出納ノ閉鎖シタル年度ニ屬スル

收入ヲ徵收シタルハ其徵收シタル現年度

ノ歳入ニ編入スルハシ

各年度ニ於テ契約済トナリタル經費ニシテ

支出ヲ命令スヘキ期限内ニ命令シ能ハサリ

シモノハ支出年度ノ歳出トナスハシ

第二十七條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納

及一切ノ豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入

ニ編入スルヘシ但法律命令ニ依リ前金渡概算

渡繰替拂ヲナシタル場合ニ於ケル返納金ハ

各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル

ヲ得

Vertical red lines and faint bleed-through text from the reverse side of the page.

第八章 政府ノ工事及物品ノ賣買

貸借

第三十三條 他ニ法律ヲ以テ定メタル場合ノ

外政府ノ工事又ハ物品ノ賣買貸借ニ從テ公

告シテ競争ニ付スヘシ但左ノ場合ニ於テハ

競争ニ付スル隨意ノ約定ニ依ルルヲ得ヘシ

第一 一人ニテ專有スル物品ヲ買入レ又

ハ借入ル・トキ

第二 秘密ニスヘキ事情アルトキ要スル

物品ヲ買入レ又ハ借入ル・トキ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入
借入ヲナスニ競争ニ付スル暇ナキ
トキ

第四 特別ノ性質又ハ特別使用ノ目的
ルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産
者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ
要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ屬スル美術工藝品
及機械ヲ買入ルトキ
第六 土地家屋ヲ買入ル又ハ借入ルニ

當リ特別ノ狀況ニ由リ競争ニ付シ
難キトキ

第七 競争ニ付スルモ競争者無キトキ又
ハ競争者アルモ其價格政府ニ於テ
豫定シタル制限ニ達セザルトキ但
此場合ニ於テハ競争ニ付スル為メ
豫メ定メタル箇條及價格ノ制限ヲ
變更シテ政府ノ利益ヲ傷ブコトヲ得

第八 同一ノ契約者ニ對シ一年度内五百

田ヲ越エサル工事又ハ物品ノ買入
借入ノ契約ヲ為ルトキ

第九

同一ノ契約者ニ對シ一年度内見積

價格貳百圓ヲ越エサル動産ヲ賣却

フトキ

第十

毎年ノ見積收入百圓ヲ越エサル土

地家屋及他ノ不動産ヲ六箇年以内

第十一

ノ手限ニシテ貸付ルトキ
軍艦ヲ買入ル、トキ但此場合ニ於テハ時ニ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第十二

軍馬ヲ買入ル、トキ

第十三

試験ノ為メニ工作製造ヲ命ジ又

第十四

物品ヲ買入ル、トキ

慈善ノ為メニ設立セル教育所ノ

資民ヲ備置シ及其生産又ハ製造

物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十五

因徒ヲ備置シ又ハ因徒ノ製造物

品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府

ノ設立ニ係ル農工業場ニ直接

ニ其生産又ハ製造物品ヲ買入ル

レトキ

第十六

因徒ノ製造物品及政府ノ設立ニ

係ル農工業場ノ生産又ハ製造物
品ヲ賣却スルトキ

第三十^キ條 工事又ハ物^件品ノ買入借入ヲ為ス

ニ前拂ヲ行フヘカラス但前條第十^四項ノ場

合若シハ信用確實ナル商人商社ノ習慣トシ

テ前金ヲ受取ラサレハ工事或ハ物品供給ヲ

為ヤルモト約定ヲナストキ若クハ軍艦

兵器彈藥ノ製造ヲ注文スルトキハ此限ニア

ラス

第十九章 會計官吏

第三十條 政府ニ屬スル金錢ノ出納若クハ
物品ノ出入ヲ掌ル所ノ官吏ハ其金錢若クハ
物品ニ付テ一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ
検査判決ヲ受クヘシ

第三十五條

中

前條

官支其金

現

若クハ物品ヲ

失ヒ又ハ盜レタル場合ニ於テ其保管上自己

ノ過失ナク相當ノ注意ヲ盡シテ辭ケ難キ事

實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ

受ルニ非ヤレハ其負擔ノ責ヲ免レ・トテ得

ス

第三十條

現

金錢

出納又ハ物品ノ出入ヲ掌

ルニ付身元保證金ヲ納メシムルヲ要スル

モノハ命令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

身元保證金ヲ納ムヘキ官吏ハ其手續ヲ為シ

タル後ニアラサレハ職ニ就クヲ得ス

第三十七條 仕拂命令官財務行政官ノ職務
現 金 銀 出 納 ノ 職 務 ト 相 兼 ヲ ル コトヲ 得 ス

第三十六條 歳入ノ歳收若クハ經費ノ支出ヲ
掌ル所ノ官吏ニ其取扱フ所ノ事務ニ付一切
ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受ク
ヘシ而シテ其故意又ハ過失怠惰ニ由リ政府
ノ損失ヲ生シタルトキハ總テ私財ヲ以テ其
金額賠償ノ責ヲ負フヘシ

第十章 雜則

第三十七條 官有財産ノ規則ハ別ニ法律命令ヲ
以テ之ヲ定ム

第十章 雜則

第三十九條 事務ノ性質ニ由テ一般ノ歲計ニ

編入セス特別ノ會計ヲ立ルヲ必要トスルト

キハ法律ヲ以テ定ムハシ其會計規則ハ命令

ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條

日本銀行ニ委託スルコトヲ得

政府ハ期限ヲ定メテ國庫金ノ取扱

第十七章 附則

第四十條 本法施行前ニ生シタル政府ノ權
利義務ノ期滿免除ノ期限ハ特ニ本法施行ノ
日ヨリ起算スヘシ但特別ノ法律ニ據リ定メ
ラルモハ此限ニアラス

第四十^一條 本法ノ條項帝國議會ニ相関涉セ
サルモノハ明治二十二年四月一日ヨリ施行
ス其議會ト関涉スルモノハ二十三年同會ノ
時ヨリ施行ス
其議會ト関涉スルモノニシテ決算ニ係ル部
分ハ議會ニ於テ豫算ノ承諾ヲ經タル年度ノ
會計ヨリ施行ス

第四十^二條

本法ノ條項ト抵触スル法令ハ各
其條項施行ノ日ヨリ廢止ス



